

合理的な行政管理や
効率的な行政運営を学び、
中国で生かしたい

「いま、中国は発展途上国として、政治・経済など大きな改革に取り組んでいます。日本の合理的な管理体制や効率的な行政運営を学ぼうと、研修員に応募しました」と話す鄧さんは、広東省北部の人口300万人の工業と観光を主要産業とする韶関市に勤め、行政管理や庶務などを担当しています。

「細かな行政システムはまだ分かりませんが、それでも学ぶところがたくさんあります。例えば、登別市の庁舎ではフロアーや大部屋で、たくさんの職員が仕事をしています。中国ではセクションごとに小部屋で仕切られています。組織や職員間の連携や情報収集には良いですね。市民対応では、市民の利便を考え、窓口を1階フロアーにまとめてあり、きめ細やかな市民サービスも徹底され、応接には親しみも感じられます。日本では、当たり前のこともかもしれませんが、こういったことから学んで、いきたいですね」。

登別は、豊かな自然と
人間が溶け合った
素敵なまち

鄧さんは、現在、市役所で行政



市の幹部職員の研修で、中国の地方行政についての講演を行なう鄧さん。

管理や観光行政を学びながら、中国人観光客に向けた観光パンフレットの翻訳や市民団体との交流のほか、イベントにも参加しています。

「登別は、豊かな自然と人間が溶け合った素敵なまちで、市民のみなさんは素朴で親切ですね。祭りやイベントでは、伝統・習慣を大切に、心から楽しんでいるのが印象的です。中国では、近代化が進む中で、多くの伝統的文化や慣習などが失われてきました。ぜひ、登別の文化や慣習などを大切にしたいですね」と鄧さんは、笑顔で話してくれました。

鄧さんの研修は、12月26日まで。帰国後は、登別市のPRや広東省と登別市の友好交流に活躍してくれます。



KIRARI

ドン ジー チアン
鄧 志強さん

市は、国際交流事業の一環として、総務省などが行う自治体職員協力交流事業の協力交流研修員を受け入れています。

協力交流研修員として、登別市の行政を学ぶため、今年の5月に中華人民共和国の広東省韶関市シャオカンから来日した鄧志強さんに、登別市の印象などを聞きました。

ふるさとの文化や慣習などを大切にしたい



1962年広東省連州市生まれ。40歳。
華南農業大学（広東省広州市）を卒業し、82年から公務員として広東省韶関市に務める。現在、韶関市外事僑務局で総務室副主任として、局の行政管理や庶務を担当している。